

令和4年度

三島小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○主体的に学習に取り組み、自分の思いや願いを豊かに表現できる児童の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長・総括	藤田 俊明
		教頭・総括補佐	辻 宏明
北田 奈緒子		教務主任	松田 享子
		低学年推進員	大塚 真理子
		中学年推進員	山本 美保
		高学年推進員	西原 寛喜
		特別支援教育コーディネーター	吉田 美奈

校長

藤田 俊明

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や計算のドリル学習に真面目に取り組む、ある程度定着している。 ●学習した内容を、生活の中で適切に使うことに課題がある。 ●語彙が豊富でない。 ●文章を正確に読み取ることができない児童がいる。	・各学年で学習する漢字や計算等、基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。 ・日記や作文の中で既習漢字を使う等、身につけた知識・技能を学習や生活の中で活用することができる。 ・文章を正確に読み取ることができる。	・ドリルタイムで既習内容の復習や小テストを行い、読み書き計算の力や語彙力を高める。 ・自分の考えを文字化する活動を増やす。 ・身につけた知識・技能が活用できたときには賞賛し、周りに広めていく。 ・朝の活動の時間に、あわっこタイムズや、保健だよりを読む(または活用する)時間を設ける。			

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、授業公開等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の思いや考えを素直に表現しようとする児童が多く、理由を示しながら表現できる児童も増えてきた。 ●考えの糸口が見つからなかったり、そもそも課題が理解できていない児童もいる。 ●話し合いによって考えを深めることが難しい。	・何が課題かを正確に理解し、解決に向けて、見通しをもって粘り強く考えることができる。 ・話す活動や書く活動の時に、根拠や理由を明らかにしながら自分の考えを表現できる。 ・友達の意見を聞いて自分の考えに生かすことができる。	・問題を解く際には、課題を正確に把握するため、大切なところに下線を引くなどしながら読むようにする。 ・自分の経験とつなげて考え、表現できるようにする。 ・自分の考えを表現する場を増やし、表現の仕方、聴き方の良いモデルを提示する。 ・ペアやグループでの学習で、お互いの考えを話したり聞いたりする経験を全員に積ませる。 ・ホワイトボードや付箋、ICT 機器を利用した話し合いの仕方を工夫し、お互いの考えを整理できるようにする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学校での学習や家庭学習に真面目に取り組むことができる児童が多い。 ○好きなことに主体的に取り組む、それを広げようとする児童が増えた。 ●学習に苦手意識があると、主体性が発揮できず、機械的になってしまう。 ●家庭での読書量が少ない。	・問題意識をもって学習に取り組むことができる。 ・学びの内容や方法を自己選択・自己決定することができる。 ・自分の学びを振り返り、学んだことを生活に生かすことができる。 ・家庭でも計画的に学習や読書に取り組むことができる。	・課題設定の仕方を工夫し、児童にとって必然性のある学びとなるようにする。 ・振り返りを具体的に書き、学んだことを生活に生かす意識を持たせる。 ・学んだことが家庭で生かせるよう、学年便りやさくら連絡網等を利用して家庭への具体的な協力を求める。 ・読んだ本について日記に書いたりクイズを出したりする、家庭読書の日には担任が選んだ本をリレーして読書するなど、読書に興味をもてる働きかけを行う。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

